

九州伝産の旅

vol.13

2025 年

八女提灯 シラキ工芸

<工房紹介>

昭和 55 年 1 月 盆提灯火袋
製造業者としてシラキ工芸創業

平成 10 年 10 月 提灯製造
業 提灯工房朋創業

平成 16 年 10 月 有限会社
シラキ工芸設立

平成 23 年 提灯工房朋合併

平成 27 年 ちょうちん堂プロジェ
クト立ち上げ

令和 2 年 cocolan ライン発表

令和 5 年 Re JAPAN ライン発
表

令和 6 年 3 月

福岡県伝統的工芸品リーディ
ングカンパニー創出事業に採択され
株式会社中川政七商店による
コンサルティングのもと
『TORCHIN』を製作・発表

や め ちょうちん こうげい 八女提灯 シラキ工芸

「伝統×新規性×若い職人」で

今の暮らしにあった新しい提灯づくりに取り組む

時代とともに変わりゆくニーズに対応するため、伝統と新しさの共存に挑戦する八女提灯のシラキ工芸さん。職人さんが一つ一つ作り上げた提灯はどれも繊細で美しく、思わず見入ってしまうほどでした。代表の入江朋臣さんにお話を伺いました。



シラキ工芸 入江朋臣さん



細かい絵柄が特徴の盆提灯



現代生活に合った八女提灯「cocolan」

■ 八女提灯の歴史・特徴

八女提灯は福岡県八女市福島町が発祥とされ、約 200 年前から日本人の暮らしを支える灯りです。八女市（福島町）では、この提灯作りの材料となる木蠟、和紙、骨となる竹、木材や漆といった材料が揃うことから、明治から大正にかけ八女地域全域の産業の一つとなり、いわゆる『盆提灯』として広く知られるようになりました。

提灯は、よくしなる竹ヒゴを螺旋状に巻いたものに、薄い和紙を貼り、中に火（明かり）を入れたもので、絵が描かれている提灯は家の玄関に吊るしたり、仏壇の傍らに置かれ、夏のお盆シーズンには欠かせない仏具の一つです。

Q.「シラキ工芸」の特徴を教えてください。

シラキ工芸の特徴は「若い職人たちが手がける多様なデザインやアイデアに富んだ提灯」を製作しているところです。

本来、提灯は内職産業であり、当社も 20 年前までは絵付け部分は職人さんに外注していました。そこを変えようと 13 年ほど前に職人用に工房を建設、絵付け職人も当社で雇用するように方針転換し、若い職人が段々増えていきました。その結果、現在では若い職人たちが、「現代の生活スタイルに合う盆提灯の絵柄とは何か」について日々考え、試行錯誤を繰り返すことでより良い提灯が出来上がっていると感じています。

時間をかけてもより細かい絵柄や斬新な絵柄を描くこと、絵柄の色使いをトレンドを意識したものにすること、ラメを入れて装飾すること等、「昔ながらの八女提灯の良さに遊び心をプラス」することで、他にはない盆提灯を皆様に届けられていると思っています。



ミニちようちんシリーズ「Re JAPAN」



ラメ装飾が施された「cocolan」

Q. 若い職人さんたちが多くいらっしゃるとう伺いました。何か工夫されていることはありますか。

SNS（インスタグラムでショート動画を投稿する等）を利用してアットホームな職場であることを発信することで、幅広い方の目につく機会づくりをしています。

また、従業員のモチベーションアップにも努めており、その一環として全国各地でポップアップストアを開催しています。全国の皆様に八女提灯を知ってもらうことはもちろん、各地域に合う提灯のデザインを職人たちが考え、それを商品化しているため、職人にとっても周りと競争する良い機会になっており、各々の成長に繋がっていると考えています。

人材育成の観点では、新入社員に年の近い社員がティーチングをするなど、働きやすさと技術力の向上の両立を図っています。



従業員の方々とポップアップストアの様子 シラキ工芸インスタグラムより

Q. どのような思いからシラキ工芸に入られたのでしょうか。

（最年少のはり師・北村さんに聞きました）

シラキ工芸に入社を決めたのはシラキ工芸の HP で「cocolan」を見て一目惚れしたからです。その後、会社見学をした際に、職人さんが仕事する姿を見て憧れを抱き、入社を決意しました。



提灯に和紙を貼る「はり」の工程

Q. 現代の生活に馴染む新しい提灯「cocolan」を展開されていると思います。制作に至った考え、また、今後の展開について教えてください。

「cocolan」は若い人が増えてきて、会社として何か新しいことに挑戦しようと思い、「第9回雪のデザイン賞」というコンテストで、新しい山の形をした提灯「樹氷のあかり」を作成したことがきっかけになりました。ここからヒントを得て、新しい提灯「cocolan」完成までの試行錯誤の日々がスタートしました。1番難しかった点としては提灯の骨格部分である「はり」の制作です。「cocolan」は通常より小さい提灯になるため、通常ははりを木で作るところ、それができないため、何回も試作を繰り返しながら独自のはりを制作していきました。



小ぶりで場所を問わない cocolan

今後は、海外の展示会にも出展していきたいと考えていて、社員に英語の専門学校に通ってもらう準備もしているところです。

Q. 最近の取組は？

6月にアクロス福岡で、「大切な人を想う灯り展」と題して八女提灯の販売とワークショップを行いました。ワークショップは「世界に1つだけの提灯」というキャッチコピーのもと、八女提灯の概要から作り方で1からレクチャーし、非常に大きな反響をいただきました。また、先日は銀座伊東屋でも初めて「提灯の絵付け体験」を開催しましたが、日本の文化に触れたいという方が非常に多くお見えになりました。これからもそうした方々に八女提灯の魅力を届けられるように取り組んでいけたらと思います。



ワークショップの様子

profile

事業者名

有限会社 シラキ工芸

場所

福岡県八女市緒玉 198-1

電話

0943-24-3054

Web サイト

<https://www.chouchin.com/>

Q.入江さんのモットーを教えてください。

モットーは「ブレないこと」、「出会いに感謝」。お客さん、職人さん、部材を提供してくれる業者さん等、様々な方々がいてはじめて提灯が作れるということに感謝しながら日々仕事しています。

Q.今後の展開は？

「八女提灯のことをもっと知ってもらふこと」が大切だと思っています。八女提灯も工芸品も、伝統技術を残しながらも進化し、活用の幅を広げていっていることを知ってもらふことが、「cocolan」といった現代の生活に馴染む提灯を普段から使ってもらふことに繋がると考えています。そのために、古き良き盆提灯への工夫や新しい提灯の提案、ポップアップストアやワークショップ等の、さまざまな仕掛けをしていけたらと思っています。

Q.八女提灯の魅力を教えてください。

（北村さん）「職人さんによって変わるデザインや絵柄により、新しい提灯が次々に生まれていくところ」に魅力があると思います。

（入江さん）八女提灯はこれまで日本人の生活に寄り添い、あたたかみや落ち着きを提供してきました。「灯りをつけたら心が安らぐ」ところに八女提灯の魅力があると思っています。お盆の時に皆様がご先祖様に手を合わせる横などで、これからもあたたかい灯りを届け続けていきたいと思っています。



シラキ工芸直営店 ちょうちん堂

若い職人さんたちが多く在籍され、活気に溢れるシラキ工芸さん。これまでの提灯のイメージが大きく覆され、その提灯たちはお盆に限らず、我々の日常生活に新たな彩りをプラスしてくれるものだと感じました。また、日本にとどまらず、世界にも八女提灯の良さを発信していこうと精力的に動かれている姿がとても印象的で今後の展開にも期待したいと思いました。